



ほけんだより

2月号



令和6年2月1日
立石いろは保育園
看護師 西川

寒いからといってうちの窓を閉め切っていませんか？長い時間換気をしない室内はウイルスや二酸化炭素、ほこりで汚れてしまいます。寒くてもこまめに換気を行い、空気の入替えをこころがけましょう。



溶連菌 感染症

溶連菌(ようれんきん)感染症とは、溶血性連鎖球菌という細菌による感染症で、喉の痛みを伴う咽頭炎の2割程度がこの菌が原因と言われています。5~10歳くらいまでの子どもがかかりやすく発熱で気付かれることが多く、咳やくしゃみなどでうつります。



2~5日の潜伏期間の後、喉の痛みや、扁桃腺が腫れる症状から始まり、頭痛、体のだるさなど、かぜの症状と同時に38~39℃の高熱が出ます。発熱から2~3日経つと、首や胸、手首、足首に粟粒状の発疹が現れて強いかゆみを伴い、やがて全身に広がります。同時に、舌にイチゴ状の小さくて赤いブツブツとした発疹が現れます。

溶連菌感染症と診断されたら、抗生物質を10日から2週間程服用します。早い時期から服用する程、治療効果があるとされています。発症から5日程経つと熱も下がり、発疹や喉の痛みも治まります。予防には、手洗い・うがいが必要です。登園時には【登園届け】が必要です。

熱がある時は、水分補給を十分にいきましょう。また、喉の痛みがあるため、熱い物や刺激物、柑橘系の果物は避けましょう。回復後、まれに急性腎炎やリウマチ熱にかかることがあります。症状が消えても、医師の指示があるまでは薬の服用をやめないようにしましょう。



感染性 胃腸炎



感染性胃腸炎は、ノロウイルスやロタウイルスが原因の胃腸炎で、数時間前まで元気だったのに突然顔色が変わり嘔吐が始まるケースが多く見られます。症状が出てから数時間が一番重く、水分を与えても吐いてしまいます。吐き気が治まるまで様子をみて、顔色が戻ってきたら経口補水液などを少量ずつ与えましょう。乳児の場合、母乳はそのままあげても構いません。下痢の症状は、数日前から出る場合もあれば嘔吐が始まってから出る場合もあります。嘔吐物や便から感染するケースが多いので、早めの処理と消毒が集団感染の予防につながります。

お知らせ

●感染症について

年末から園では、感染性胃腸炎や咽頭結膜熱、溶連菌感染症の診断を受ける園児が見られています。症状の悪化や数日間続いている場合は医療機関への受診をお願い致します。

●歯科健診について

秋期の歯科健診が未受診の方は、2月末までに健診を受けていただくようお願いいたします。健診用紙が無い場合は事務所までお声掛け下さい。

